

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700472		
法人名	有限会社 ひまわり		
事業所名	グループホームこのは1F		
所在地	河東郡音更町新通20丁目1-1		
自己評価作成日	平成29年10月24日	評価結果市町村受理日	平成30年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0194700472-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マルシェ研究所
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成29年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎月、入居者ご家族あてに写真付きの手紙を送り近況を知らせている。 入居料を現金で支払っていただいているので、月に1回はお話をする機会や交流ができています。 毎日、入居者の方と買い物に出かけ、好きな物を選択していただいている。 毎週メニュー会議を行い、入居者の食べたいものをメニューに取り入れている。 日々の生活でできる事は自分でできるような場面づくりをしている(炊事・掃除・畑など)。 個室にトイレ・洗面台があり、プライバシーが確保されている。 家族が宿泊できる部屋があり、交流することができる。 本人の希望に沿った外出機会を設けている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所では、利用者本位のケアの実践を目指し利用者の身体状況や日々の介護の状況の記録を丁寧に行っています。会議では利用者について、どのような形の介護が必要かを測るため、数値化した記録による根拠をもとに担当職員が利用者のモニタリングやアセスメントを報告し、事後対応的ではなく予防的な側面から介護計画を作成しています。利用者の力を活かし、できることを継続し意欲的な生活ができるよう、生活場面への利用者参加の機会を多く取り入れています。食事の献立は利用者の要望を反映し利用者と一緒に買い物に行ったり、屋外での行事食等、食事に対する興味や関心が向くように努めています。散歩など日常的に外出する機会が多くあり近隣の温泉への外出も行っています。運営法人内に各種の委員会があり、知識の技術の向上と職員の質向上に取り組んでいます。また事業所の方針や運営について職員の意見を反映する仕組みがあります。</p>

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる(参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらい 3 家族の1/3くらい 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられる(参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員2/3くらい 3 職員1/3くらい 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらい 3 家族等の1/3くらい 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より新しく理念を掲げ、業務日誌に記載、共有し、毎日意識して理念に基づいた仕事ができている。	職員が参加して新しい事業所理念を策定し、理念の意識付けや共有を行っています。理念にある利用者個別の幸せとはどんなことを職員が話し合い、暖かな介護を目指しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し利用者と共にゴミ拾いや芸能発表等に参加している。ホームの行事も参加の声掛けをし、日常的にも畑で作った野菜をいただいたり、ホームで作ったお赤飯等のお裾分けをし交流している。	町内会に加入し、地域の行事へ参加しています。日常的に散歩や買い物に出かけたり、事業所の行事に地域の人の参加もあるなど、ふれあいの機会を大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練や町内会行事へ入居者の方と参加することで、支援の方法や理解を得られるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に行っており、入居者・ご家族・町内会・民生委員・包括の参加がある。サービス内容の報告をし、改善点等意見を頂きサービスの向上に努めている。	定期的を実施しています。入居者、家族、行政、地域からの参加があります。事業所の現状と活動について報告が行われ、意見を交わしています。議事録は事業所に設置しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の訪問を受け、交流する機会を設けている。町からの依頼や講習会に参加しており、町担当職員とは常にメールでの連絡体制が取れている。	定期的に町の介護相談員の訪問があり、必要に応じて面談の結果を話し合っています。SOSネットへの参加など、地域との連携も含め協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のため職員数が少ない場合と18:00～9:00までは施錠している。身体拘束については、社内研修を行い身体拘束をしないケアに努めている。	法人の研修で、職員は動画で学ぶなど身体拘束に関する具体的な内容や意識の共有を図っています。利用者の外出については玄関センサーを活用し、一緒に出掛けるなど閉塞感がないよう見守りを行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に、職員の意識を高め、日々のケアの中で間違いがないよう確認を行い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会などで学ぶ機会はあるが、活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接や契約時は、必ず入居する階の管理者が同席し、時間をかけて説明し理解・納得に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、入居者・ご家族に参加していただき意見を運営に反映している。また、日常的な話す機会や介護相談員と直接話す機会を設けている。	担当職員から毎月手書きの手紙を送付し、生活の様子を伝えています。家族との連絡を密にし良好な関係作りに努め、意見や要望を聞き取るようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は年1回個人面談を行い意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は日常の会話から職員の意見や提案を受け、管理者会議で反映し改善に取り組んでいる。	管理者は日々、職員の意見や要望を聞き、法人の管理者会議を通じて反映に努めています。職員は年1回の社長面談の際に、事業所の運営や待遇等の意見を直接伝えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力認定評価を実施し、実績に応じて給与に反映されるなど、各自やりがいを持てるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルやモチベーションアップのため、人材開発計画により個人に対し希望する研修・書籍の購入などができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	北海道グループホーム協会に加入しており、研修に参加する等交流する機会を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接や入居前アセスメントを行い、職員に周知し、安心した生活を送れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接で聞き取りを行っており、センター方式の用紙にご家族に記入していただき情報や要望を把握し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや事前面接時に詳しい状況を伺い、必要なものは何かを見極め、プランに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で一緒に料理や掃除を行う中で教えていただいたり、手伝わせていただきながら喜怒哀楽を共有し、ともに過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や入居料支払い時に状況を伝えている。また、毎月のお手紙や必要時には電話での相談や施設行事への参加の声掛けをし、ともに支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に応じて自宅やお墓参り等できる限りの外出支援をしている。遠方からのご家族には宿泊できる部屋があり、関係が途切れないように支援している。	本人の馴染みの関係について状況を把握しています。馴染みの美容室への送迎や自宅への外出、年賀状のやりとりなど、継続的な交流ができるように支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一緒に食事を摂る、お茶の時間を設けるなどの日常生活のほか、誕生日を祝うなどのお互いが関わり合える機会を持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後入院中の方はお見舞いに行き、ご家族に近況を聞くなど関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話・言葉・表情から汲み取るよう努めている。意向の把握が困難な方には、ご家族から情報を得るなどし本人本位に検討している。	日々の関わりの中で得られる利用者の思いや意向は、ケース記録や申送りに記録し、介護計画に反映しています。利用者へそれとなく問いかけるなど、把握に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に本人、ご家族、利用施設の方から詳しい情報を頂き、職員間で情報を共有している他、ご家族にセンター方式の用紙に記入してもらい情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前面接で情報を得て把握している。日々の生活は、モニタリング・記録・申し送りなどにより職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議でモニタリング・目標の達成状況などについて話し合い、検討している。健康状態や身体状況に合わせてその都度、介護計画の見直し、作成を実施している。	会議で利用者担当を中心にモニタリングの結果を報告し、介護計画に反映しています。介護計画は本人や家族の希望や要望と満足度を踏まえ、予防的なケアに重点を置いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の24時間支援シートの記入、申し送りノートの活用により情報を共有しながら記録をもとに、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族が希望した時には外出をしている。相談・要望があれば話を聞き、受診対応など必要に応じた支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育所の訪問やボランティア、運営推進会議の実施、避難訓練で消防や近隣の方に協力・アドバイスをいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携病院の医師が月に1度訪問診察を行っている。他病院受診は基本ご家族にお願いしているが、添書を持参してもらい、必要時には職員が付き添うなどの支援をしている。	毎月利用者全員が提携病院の訪問診療を受診しています。利用者の要望で専門医への受診も支援しており、専門医に対して普段の様子や変化を文書で情報提供しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を職員として確保しているため入居者の健康管理や体調に合わせた対応が24時間できている。介護職員は看護記録への記入や週1回の看護師の勤務時に情報を伝え指示を受け適切な看護を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合はお見舞いに行き、顔なじみの関係を維持し病状の把握に努めている。早期退院できるよう職員が病院と情報交換している。また、洗濯などの身の回りの支援もしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期の方針説明を行い、ご家族に書面にて意向を確認している。委員会を中心に勉強会やマニュアルを作るなどの活動をし、取り組んでいる。	入居時に終末期の方針説明を行い、家族の意向を確認しています。運営法人内に委員会を設け、重度化や終末期への対応、医療機関との連携、本人と家族の意思確認など必要な取組について検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故等発生に備えて、一斉通報システムを導入しているほか、年2回の避難訓練を実施している。応急手当や初期対応の勉強はしているが、定期的な訓練はできていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をしている。消防署指導の下、初期消火訓練や夜間想定での避難訓練を実施している。地域の方にも一斉通報システムに登録していただき、避難訓練に参加してもらっている。	年2回の避難訓練では、地域住民も参加して消火訓練や夜間想定での訓練を行っています。災害発生時には職員、地域住民へ協力要請を行う一斉通報システムを導入しています。	昨年の豪雨災害もあり、事業所の防災意識は高まっていますが、事業所の災害行動計画等の共有は行っていません。全職員が防災訓練に参加できる体制づくりや家族への情報伝達方法の確認、災害時における他施設への避難方法や備蓄物資の連携強化が望まれます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの身体・精神面・生活歴などを把握し、状況に応じた声掛けや対応を行うようにしている。環境面では各居室に洗面台・トイレがあり、プライバシーは確保されている。契約時に個人情報の取り扱いについて確認し、サインをもらっている。	利用者一人ひとりに合わせ、わかりやすく親しみやすい言葉掛けをしています。個室で身だしなみを整えるようにできるなど設備面も整備し、自尊心に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に応じ質問の仕方を変え、小さなことでも自己決定できるように心掛けている。自己決定が難しい方は、表情などから汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	担当職員が中心となり24時間支援シートを作成し、一人ひとりのペースに合わせた生活ができるよう本人の思いを反映させた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等はご家族にお願いし、その人らしい装いになるよう支援している。理美容は訪問理容を利用し、一人ひとり確認しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の希望したものや季節のものをメニューに取り入れて、食事が楽しみになるように配慮している。その人の力に応じて準備や片付け等の支援を行っている。	献立は利用者の要望を取り入れ職員が作成しています。利用者と一緒に買い物に出かけ、調理の助言、後片付け等も一緒に行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況を把握するため水分・食事量を記録し、個別に合った形状で提供するなどの対応をしている。その人の力に応じて準備や片付け等の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方は声を掛け確認し、介助が必要な方にはその人に応じた口腔ケアを毎食後に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄表で記録を付け状況を把握し、リズムに沿って声掛け誘導することでトイレでの自立した排泄に繋げている。また、仕草や様子からさりげない声掛け・誘導に心掛けている。	居室内にトイレがあり、日々の排泄リズムを正確につかむのが難しい利用者は、センサーを活用し把握に努めています。時間や様子を見計らって、さりげない声掛け誘導を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた献立の作成、起床時の牛乳の提供、1日の水分量の把握のほか朝の体操、行進など運動を行っている。排泄の記録から状況を把握し、個別対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ヒノキのお風呂で希望に沿って入浴できるよう支援している。拒否のある方にも柔軟に対応し、温泉に行くなど個別に対応している。また、年に数回全体で温泉入浴に出かけている。	入浴の時間タイミングなど利用者の要望に柔軟に対応しています。個別の入浴外出のほか、リフト浴の設備がある近隣の温泉施設も活用し、入浴を楽しんでもらうようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルを把握し、状況に応じて対応している。眠れないときには好きな場所で過ごしてもらい、話を聞くなどして休息できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルで管理し、毎月処方時に確認している。症状に変化があれば看護師と相談し対応している。服薬時には、日付・名前の確認を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を活かし、それぞれに調理・食器洗い・裁縫・畑・行儀挨拶・会議への参加など日課となるような役割を持っていただけよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望や気分に配慮し、買い物や散歩、動物園・地域の保育所の発表会や運動会、墓参り、外食など馴染みの場所への外出支援している。	毎日の買い物や散歩、地域行事への参加など、利用者の希望や気分に配慮し、外出の機会を設けています。利用者の畑があり野菜を育て成長を見守ったり収穫をするなど季節を感じながら生活できるようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いの上で個々に対応している。ホームで管理し、外出や個人での買い物は個別で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にいつでも対応できるようにしている。子機があり、自室でいつでも話せるようにしている。年賀状や手紙のやり取りについて、切手購入や投函するなど支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはウッドデッキがあり日光浴を楽しめるようになっている。また、絵画や写真を飾ったり、季節ごとの飾りつけ(正月・ひな人形・五月人形・クリスマス等)をしており、季節感を楽しめる工夫をしている。	広々とした共用空間に、利用者が自分の居場所を確保できるよう、テーブルやソファを配置しています。テレビを中心としたコーナーなど寛ぎの空間があります。空気清浄機や加湿器を増設し快適な温度や湿度を保てるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部は広く、リビングは2か所ありソファとテーブルを配置し、大人数でゲームや体操をしたり、一人で本を読んだり思い思いに過ごせる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使っていたものを持って来ていただくよう伝え、本人の馴染みのあるものを使用することで居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居時には、本人の馴染みのあるものを持参してもらうように伝え、居心地の良さに配慮しています。居室の入り口には手作りのネームプレートで温かい雰囲気となるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全ての廊下や自室に手すりを設置しているほか、安全に移動できるようエレベーターも利用することができる。また、床はバリヤフリーになっており自室には物干しやトイレがあり、一人でできる環境づくりもしている。		